

## フェアトレードと SDGs

### フェアトレードサークル MANA / 橋本 愛音 (英米学科・学生)



はじめに

フェアトレードサークル MANA はフェアトレードの認知拡大を目的に活動している大学公認サークルです。SDGs月間中は、生協前でフェアトレードチョコレートの販売を行い、10月4日に行われた SDGs イベントでは、MANA の活動の説明とともに、フェアトレードについて SDGs との関連性や現状の課題点などについてお話させていただきました。

MANA について

もともとは 2006 年にゼミの活動の一環としてスタートし、現在は、週に1回のミーティングに加えて、フェアトレードコーヒーを販売する MANA カフェ、地域の皆さんや学生の方にフェアトレードチョコレートのパッケージをデザインしてもらう「まちチョコ」企画、フェアトレード勉強会、その他学外イベントへの出店などの活動を行っています。下のイラストは MANA のマスコットキャラクターの「マナぞう」です(図1)。



図1: マナぞう(フェアトレードサークル MANA 作成)

フェアトレードについて

フェアトレードは、途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入することによって、立場の弱い途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指す「貿易の仕組み」ことを指します。現在の貿易体制では途上国の貧困層が正当な支払いを受けられていないという問題や、生産性を上げるため農薬が必要以上に使用されることによる生産国の環境破壊や労働者の健康状態の悪化という問題があります。このような不公平で不公正な状況を是正するために作られたのがフェアトレードであり、フェアトレードの認証を受けた商品には別掲のようなマークが記載されています(図2)。



図2: 国際フェアトレード認証マーク  
(フェアトレードジャパン 公式サイトより)

先進国消費者の問題

このような不公平な状況が生まれる原因には先進国の消費者も大きくかかわっています。先進国の消費者が商品の安価な値段での購入を望めば望むほど、先進国の輸入業者は途上国の輸出業者から安く仕入れようとし、途上国の輸出業者も途上国の生産者からさらに安く仕入れようとします。これらの連鎖により、途上国の生産者は商品を安く作することを余儀なくされ、それが児童労働や労働者の搾取、悪状況下での労働などといった問題につながっています(図3)。

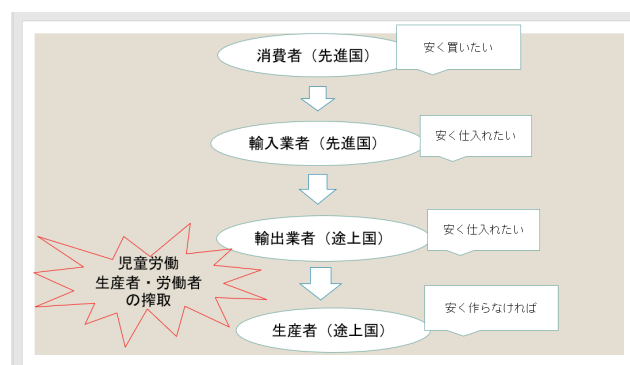


図3: 児童労働や生産者搾取への連鎖(フェアトレードサークル MANA 作成)

実際の取り組み

フェアトレードでは、このような状況の改善のために様々な取り組みがなされています。例えば、生産者の方が豊作や不作の影響を受けず安心して生産に取り組める「最低保証価格」を

設定したり、収穫期までに借金をせずに暮らせるよう、「前払い金の支払い」制度を設けたり、ソーシャルプレミアムと呼ばれる社会開発目的の割増金を設け、購入額の一部を生産者組合に渡したりする活動を行っています(佐藤 2011)。

しかし、このような取り組みにはコストも多くかかり、成立には先進国の消費者の購買が必須となってきます。

### フェアトレードとSDGsの関連性

冒頭にはSDGsのロゴをすべて掲載するのが難しく、主に関わりのある7つを紹介していますが、実はフェアトレードはSDGsの17のゴールのほとんどすべてと関連しています。イベントではその中でも大きく3つに分けて関連性をご紹介しました。

1つ目は、生産者、労働者の生活水準を向上させるという点です。現在の途上国の生産者には適切な価格が支払われていないという問題がありますが、フェアトレードはこの状況を是正すべく、適切な価格で商品を取引し、必要に応じて賃金を前払いすることによって、貧困問題の解決や労働環境の改善、そして、生活の改善に貢献しています。この取り組みは SDGsの1、2、3、6、8、10、16の目標達成に貢献していると言えるでしょう(図4)。



図4: 関連するSDGsゴール1(日本ユニセフ協会公式サイト画像をもとに作成)

2つ目は児童労働の解消という点です。現在、経済的な貧困により、世界中の子供たち約1億6千万人が過酷な環境下で働いているといわれています(UNICEF/ILO 2020)。フェアトレードでは、取引する商品に対して基準が設けられており、児童労働や強制労働によって生産されたモノの取引を禁止しています(WFTO 2016)。また商品の生産地に対しては、安全な労働環境の実現、そして維持を支える取り組みが行われており、これらの取り組みは SDGs1、3、4、5、9、10、16の目標達成に貢献していると言えます(図5)。



図5: 関連するSDGsゴール2(日本ユニセフ協会公式サイト画像をもとに作成)

3つ目は環境問題の改善という点です。途上国では、人々の生活を支える施設や基盤、或いは、環境を守る為の対策が整っていないにもかかわらず、工業化や大都市への人口集中が進んでおり、公害問題が深刻化しています。フェアトレードは廃棄物や汚染を最小限に抑えながら、持続可能なエネルギーや

原材料を最大限に利用することで、環境に配慮を行っています(WFTO 2016)。この取り組みは SDGsの6、7、11、12、13、14、15、17の目標達成に貢献していると言えるでしょう(図6)。



図6: 関連するSDGsゴール3(日本ユニセフ公式サイト画像をもとに作成)

### フェアトレードの課題点と私たちにできること

以上のようにSDGsゴール達成にも貢献しているフェアトレードですが、フェアトレードにも課題が多く残っています。前払い金だけでは生産者の生活を賄えない、生産者にとってフェアトレード商品は一部であり、まだまだ不公平な取引が多い、コストが高いため発注側にリスクがある、フェアトレードが救えるのは一部である、生産者のフェアトレードからの卒業と自立が困難、複数の団体(国際フェアトレード認証ラベル、フェアトレード団体マーク、企業団体)が独自に基準を定めて認証しており基準が曖昧となっている、などです(佐藤 2011)。

しかし、MANAは、いくつかの点、つまり、フェアトレード商品の継続的な購入、自分たちの購買活動がもたらす生産者や環境への影響を自覚すること、SDGsやフェアトレードの認知拡大に協力すること、生産過程などにも配慮したエシカルな消費を心掛けることなどで、これらの課題の解決に貢献できると考えています。皆さんも、問題の解決のために、普段の消費行動を見直してみませんか。そのためにもお買い物の際にフェアトレード商品を一度探してみてくださいればと思います。

### 主要な参照、参考文献など

佐藤寛(2011)『フェアトレードを学ぶ人のために』世界思想社 出版

フェアトレード ジャパン 「認証ラベルについて」

[https://www.fairtrade-jp.org/about\\_fairtrade/intl\\_license.php](https://www.fairtrade-jp.org/about_fairtrade/intl_license.php)

UNICEF/ILO (2020), *Child Labour: Global Estimates 2020, Trends and the Road Forward*.

<https://data.unicef.org/resources/child-labour-2020-global-estimates-trends-and-the-road-forward/>

WFTO (2016) “The 10 principles of Fair Trade” (World Fair Trade Organization, Europe)

<https://wfto-europe.org/the-10-principles-of-fair-trade-2/>